

30年の経過で4度の異物挿入を認めた膀胱尿道異物の1例

栗林 宗平, 薦原 宏一, 山道 岳
大草 卓也, 谷口 歩, 岸本 望
谷川 剛, 高尾 徹也, 山口 誓司
大阪府立急性期・総合医療センター泌尿器科

REMOVAL OF A FOREIGN BODY IN THE URINARY BLADDER
IN A PATIENT FOUR TIMES IN THE PAST THIRTY YEARS

Sohei KURIBAYASHI, Koichi TSUTAHARA, Gaku YAMAMICHI,
Takuya OKUSA, Ayumu TANIGUCHI, Nozomu KISHIMOTO,
Go TANIGAWA, Tetsuya TAKAO and Seiji YAMAGUCHI
The Department of Urology, Osaka General Medical Center

We report a case of recurring foreign bodies in the urinary bladder. A 67-year-old male inserted a foreign body into the urinary bladder during masturbation. Eight months later, he experienced a fever and went to a hospital where ultrasonography revealed a foreign body in his urinary bladder. Then, he was referred to our hospital for surgical treatment. The patient's surgical record indicated that he had undergone the same operation 3 times in the past thirty years. The inserted foreign body was successfully removed by suprapubic cystotomy, and he was discharged 13 days after the operation. He was also evaluated by psychiatrists, but they diagnosed that he had no mental disorder. To our knowledge, this is the first report on the removal of a foreign body in the urinary bladder four times in the same patient.

(Hinyokika Kiyo 62: 141-143, 2016)

Key words: Foreign body, Bladder, Repeat

緒 言

膀胱尿道異物は決して稀な疾患ではなく、本邦においてもすでに1,400例を超える症例が報告されているが、複数回摘出術を施行されている症例は少数である。今回われわれは、30年の経過で異物を自慰目的に挿入し4度の手術を施行された膀胱尿道異物の1例を経験したので若干の文献的考察を加え報告する。

症 例

患者：67歳，男性

主訴：発熱，倦怠感

既往歴：特記すべきことなし

生活歴：独居，別居の姉あり

職業歴：会社員

現病歴：40歳時にガス管先端バルブを挿入し開腹手術を施行しており，55歳時には単4電池を挿入し，経尿道的にて異物を摘出した。60歳時にはゴム管を挿入し，開腹手術を施行されている。受診8カ月前に釣り具を尿道内に挿入し放置していた。発熱，倦怠感，排尿時痛，排尿困難を認め前医を受診し，膀胱尿道異物による尿路感染症と診断された。加療目的に当科受診となった。

現症：血圧 116/77 mmHg，脈拍 98 bpm，体温

38.0°C

血液検査所見：WBC 31,000/mm³，RBC 383×10⁴/mm³，Hb 11.5 g/dl，Ht 35.0%，Plt 37.0×10⁴/mm³，Cr 1.04 mg/dl，BUN 47 mg/dl，CRP 31.06 mg/dl

尿定性検査：潜血反応 3+，白血球反応 2+，亜硝酸 +

尿沈渣：赤血球数 算定不能，白血球数 100以上/HPF

尿培養：E.coli，菌数 1.0×10⁵ 以上



Fig. 1. Sagittal pelvic computed tomography showed foreign body from membranous urethra to bladder.

画像所見：骨盤部CTにて膜様部尿道から膀胱内にかけて挿入されている膀胱尿道異物を認めた。膀胱壁を穿孔している所見は認めなかった（Fig. 1）超音波検査では、左水腎症が認められた。

受診後経過：自排尿は可能な状態であった。軟性膀胱鏡検査では外尿道口は開大しており、軟性膀胱鏡の挿入は容易であった。異物は尿道から膀胱内へと連続しており、また膀胱内の異物には結石が付着していた。画像所見も考慮し経尿道的摘出は困難と考え、入院後第2病日膀胱異物摘出術を施行した。また、血液検査所見と画像所見から左腎盂腎炎を合併していると考え、tazobactam/piperacillin（TAZ/PIPC）13.5 g/日投与開始とした。

手術所見：前回の手術創に沿って10 cmの下腹部正中切開をおいた。Retzius腔の展開を行うも強固に癒着しており剥離に難渋した。膀胱前面に到達し、3 cmの横切開を膀胱におき、膀胱内に2.5×6 cmの結石を伴った異物を確認した。尿道内へ連続する異物を一塊に抵抗もなく摘出した。膀胱、尿道に損傷は認められなかった。摘出異物に付着する結石を除去すると釣り具の浮きを自身にて改良した棒状の物体が認められた（Fig. 2）。

術後経過：術後、尿培養より検出された*E.coli*の感受性判明後Cefazolin（CEZ）3 g/日を投与した。炎症所見に関しては、術後10日目にてWBC 10,600/mm³、CRP 1.89 mg/dlと低下し、術後経過は良好であり、術後7日目に尿道カテーテルを抜去し、術後13日目退院となった。

尿道カテーテル抜去後は失禁状態であったが、術後3カ月目の尿流量検査では、尿量160 ml、最大尿流速16.1 ml/sと排尿困難は改善していた。

また、繰り返される膀胱異物挿入歴があるため、精神科紹介とした。性欲喚起あるいは性的満足のための刺激として生命のない物質に頼っていることから性嗜好異常や統合失調症性人格障害の可能性はあるが、精

神病圏にはないと診断された。以後の精神科通院は拒否された。

退院後18カ月を経過した現在まで、異物挿入にて再受診することなく経過している。

考 察

膀胱異物の報告は重村ら¹⁾の集計によると、2002年までに1,400例が報告されている。症状は、頻尿、膿尿、血尿、尿勢低下、発熱などさまざまである。本症例のように、発熱を主訴に来院する膀胱異物の症例も認められている²⁾。診断としては、現病歴と合わせ、超音波検査やCTといった画像評価により可能であると考えられる。また、治療に関しては抗生剤加療のみの加療は原因を除去できておらず不十分と考えられており、手術による摘出が必須と考えられる。

高齢化や環境の変化により、過去の統計と現在の統計は変化していると考えられ、今回甲斐ら³⁾の2000年から2013年の膀胱異物54例に、それ以降に報告された自験例を含む8例を加えた62例に関して統計学的考察を行った。侵入経路としては、経尿道的が49例、経膀胱壁のが11例、経皮的が1例、結腸膀胱瘻1例であり、経尿道的が79%と以前の報告に比すると経尿道的の膀胱異物が増加していた。これまでの報告と同様に、経尿道的49例のうち37例（76%）が自慰、性戯目的であり、挿入された異物は、体温計やボールペン、ゴム製品など、形状、素材は多種多様であった³⁻⁵⁾。

好発年齢については、文献上20代の男性に好発すると報告されていた^{4,5)}。今回の検討では、経尿道的に自慰目的に挿入された37例で、60歳代が有意に多かった（Table 1）。医療環境、社会環境の変化に伴い、性活動盛んな高齢男性の人数が増加していることが可能性として考えられる。

性別に関しては、以前は男女比2:1と報告されていたが^{4,5)}、男性51人、女性11人と有意に男性が多かった。

本邦において膀胱異物を繰り返した報告は2例存在



Fig. 2. Removed foreign body without calcification from the bladder.

Table 1. Age distribution of self-inflicted foreign body in the bladder which was reported from 2000 to 2014 in Japan

年齢（歳）	男性	女性	計（%）
10-19	6	0	6 (16.2)
20-29	4	1	5 (13.5)
30-39	2	0	2 (5.4)
40-49	4	0	4 (10.8)
50-59	4	0	4 (10.8)
60-69	13	1	14 (37.8)
70-79	2	0	2 (5.4)
計	35	2	37

し¹⁾, 2例ともに2度の挿入であり, 今回のように4度の挿入歴があるものは非常に稀と考えられる.

また, 2000年からの膀胱異物62例のうち精神疾患合併の記載があるものは6例(9.7%)であった. Bedi⁶⁾ らによると, 精神疾患としては統合失調型人格障害や境界型人格障害, 精神遅滞などが挙げられている. Kenny⁷⁾ は, 精神疾患の合併の有無に関して, 精査できていなければ, 早期に精神科に紹介すべきであると述べている. また, 精神疾患があれば以後精神科にて定期的に通院加療を行うこととなり, 再発を防ぐことができるのではないかと考えられている⁸⁾.

Costa ら⁹⁾によると, 人格や精神病理学的な評価を行うことで, 異物の膀胱への自己挿入が, 自己を傷つける行為の一形態として行われたと判明したり, 統合失調症性人格障害による1つの現象と判明したりすることもあると報告されている. 本邦の症例報告において, 精神面の評価が行われておらず, 精神科紹介に関する記載がないものも認められている. 再発が予防されたとの症例報告は現時点では存在しないが, 膀胱異物を契機に精神疾患が診断され加療が開始されることもあるため, 膀胱異物の症例に対しては, 精神科紹介を考慮すべきであると考えられる.

結 語

30年の経過で4度経尿道的に異物挿入を認めた1例を経験した.

自己挿入による膀胱異物の症例に関しては, 精神科紹介が必要と考えられる.

本論文の要旨は第229回日本泌尿器科学会関西地方会において発表した.

文 献

- 1) 重村克巳, 結縁敬治, 片岡頌雄, ほか: 膀胱異物(チューインガム)の1例. 泌尿紀要 **48**: 229-230, 2002
- 2) Hwang EC, Kim JS, Jung SI, et al.: Delayed diagnosis of an intraurethral foreign body causing urosepsis and penile necrosis. Korean J Urol **51**: 149-151, 2010
- 3) 甲斐文文, 海野智之, 須床 洋: 自慰目的で経尿道的に挿入された膀胱異物の1例— Sexual Intention BFB の文献的考察—. 泌尿器外科 **28**: 225-228, 2015
- 4) 仲谷達也, 千住将明, 井関達男, ほか: 膀胱および尿道異物の統計的観察. 泌尿紀要 **29**: 1363-1368, 1983
- 5) 伊藤伸一郎, 辻川浩三, 辻村 晃, ほか: 尿道膀胱異物の1例. 泌尿器外科 **18**: 151-153, 2005
- 6) Bedi N, El-Husseiny T, Buchholz N, et al.: 'Putting lead in your pencil': self-insertion of an unusual urethral foreign body for sexual gratification. JRSMB Short Rep **1**: 18, 2010 doi: 10. 1258/shorts. 2010. 010014.
- 7) Kenney RD: Adolescent males who insert genitourinary foreign bodies: is psychiatric referral required? Urology **32**: 127-129, 1988
- 8) Rahman NU, Elliott SP and McAninch JW: Self-inflicted male urethral foreign body insertion: endoscopic management and complications. BJU Int **94**: 1051-1053, 2004
- 9) Costa G, Di Tonno F, Capodiceci S, et al.: Self-introduction of foreign bodies into the urethra: a multidisciplinary problem. Int Urol Nephrol **25**: 77-81, 1993

(Received on July 23, 2015)
(Accepted on November 8, 2015)